

特大号

# びいどろ通信

びいどろは、6月で5年目を迎えることができました！！  
みなさまとの出会いに感謝！  
たくさんの思い出の一部を振り返りたいと思います☆

2019  
6月びいどろ開所！

開所前、あっきー(当時は主任)が書類(開所に必要な)と戦う姿をあきちゃん、ゆいちゃん、かめちゃんは見守るしかありませんでした。念願かなって開所となりましたが、その時は今から何をやっていけばよいのか、全てが手探りで、嬉しさと同時に不安な気持ちをみんなが抱えていたように思います。

2020  
6月 おせっかい弁当  
7月 居場所支援「どがんあつと？」  
10月 子ども食堂支援スタート！

2020年になり、自分たちのやりたいこと、やれることが少しずつ見えてきた、びいどろ。スタッフ共通の想いは「相談に来られた方一人ひとりに寄り添った支援」でした。この想いは今も変わっていません。たくさんの方との出会いのなかで、こんな支援があったら少しでも役に立てるのではないだろうかという想いのもと、上記事業がスタートしました。

2021  
8月 メイク&浴衣着付けイベント  
12月 食・物資支援スタート！

日々模索中ではありますが、相談支援や居場所支援など、自分達なりの関わり方が出来てきた、びいどろ。「やってみたい欲」が再び出てきます。この年から、また新しいことへのチャレンジが始まりました。



今では貴重！  
あっきーの  
作品作り



今でも見られる  
かも？  
スタッフのリラ  
ックスタイム



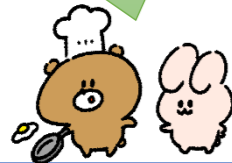
難しい環境のなかでお子さんを育てているご家庭に少しでも「ほっ」とひと息つける時間を届けたい想いから、始まった「おせっかい弁当」。一般社団法人100万人のクラシックライブ様を中心とした資金支援、Cafe restaurant Lekker(レックル)様による弁当づくりの協力をいただきました。お届けした際に見られる子どもたちや親御さんの笑顔にスタッフが元気をもらいました。



メイク&浴衣着付けの様子です。メイクや髪型、服装を変えることで、新しい自分に気づききっかけになって欲しい想いから生まれました。びいどろにおける夏の風物詩となっています。長崎県子ども・若者総合相談センターゆめおす様には開始当初からご協力いただき、翌年からはプロの美容師の方々にもご協力をいただいています。



レッツ！  
クッキング！



学校に行くことが辛い、人と話すことに緊張するなど、さまざまな悩みを抱える子ども達が安心出来る居場所をつくりたいという想いから出来た「どがんあつと？」。家でも学校でもない第三の居場所として、月曜と木曜に子ども達が来てくれています。クッキングやボードゲーム、スタッフの方が楽しんでしまうことも、しばしば…。



お届けに  
行くぞ！



「みんなあつまる。いっしょにたべる。ともにそだつ」をテーマに大浦町にある聖三一協会で、こども食堂がスタートしました。びいどろスタッフも運営に協力させていただいています。



昨年、「おせっかい弁当」を行ったことで、気づいたことがありました。人に相談を出来るようになるのは衣食住に不安がない時です。食の安定に少しでも繋がるように、「食・物資支援」をスタートしました。正月に具雑煮をこども達に作ってあげたいという母の言葉から餅や干し椎茸をお届けに行ったのを憶えています。

2022  
 1月 新メンバー まるちゃん加入  
 しもちゃん大活躍の年  
 新☆相談室完成  
 12月 クリスマスケーキ配達

2022年は大型新人がびいどろへ来てくれたり、相談室も新しくなったりした年でした。雪が降るなかのクリスマスケーキ配達も良い思い出です。何年経ったとしても、びいどろは新しいことに挑戦する気持ちを忘れずに頑張りたいです。

2023  
 4月 新メンバー たなっち加入  
 あきちゃま びいどろのリーダー(副)に就任  
 6月 長崎県内児家セン合同研修会  
 7月 九州地区里親研修大会長崎県大会事務局として運営を支援

2024年から改正児童福祉法が施行されることになり、各自治体と、児童家庭支援センターがどのように繋がっていけるかについて考える2023年となりました。



支援物資運び中のまるちゃん



新しいお菓子に挑戦中のしもちゃん



新☆相談室



たなっち(似顔絵)

たなっちがマリア園との兼任スタッフとして、びいどろに来てくれることになり、あきちゃまから里親支援の担当を引き継ぎました。初めて行う仕事も多いため、緊張や不安を感じていたと思います。たなっちが一生懸命言葉を考えて、子ども達に関わる姿はとっても素敵ですよ！



みんなの笑顔撮るあきちゃま

まるちゃんとしもちゃんがびいどろにやって来てくれました。まるちゃんは支援のために、誰よりも電話をかけ、スピーディーに動く、スーパー相談員です。

しもちゃんは、その場にいるだけで、みんなが安心した気持ちになります。子ども達だけではなく、スタッフにとっても、心の安定剤になっています。

胡内氏(左)とあっきー(右)



びいどろ開所当初からマリア園と兼任しながら、一緒に走ってくれた、あきちゃま。今年から、たなっちに里親支援のバトンを渡し、びいどろの相談員(リーダー)となりました。誰よりも、子ども達と共に喜び、悲しむことの出来る稀有な人です。あきちゃま、これからもよろしくね。



ケーキにそっと添えたクリスマスカード

ジュン アシダ様よりクリスマスケーキ配布の企画があり、大浦町のフランス菓子「コアンコアン」様にケーキのご協力をいただきました。ケーキを見た瞬間のご家族の笑顔にスタッフもにっこりでした。



長崎県で九州地区里親研修大会が開催されました。びいどろは事務局として運営支援を行いました。あきちゃまとたなっちのタッグも今大会の準備や運営の大きな力となりました。里親の皆さん、里子さん、その周りにいる支援者らの想いをそれぞれが共有出来る機会となったのではないかと感じました。

令和6年の改正児童福祉法施行に向けて、子ども家庭庁 支援局 家庭福祉課 企画調整官の胡内氏を講師とし、合同勉強会を開催しました。これからの子ども家庭福祉の方向性を確認し、児童家庭支援センター、長崎県、各市町、社会的養護関連施設、里親等関係者等がそれぞれの強みを活かした連携・協力について考える機会となりました。



結びにかえて 副センター長 高比良 亮(あっきー)  
 5年目を迎え、びいどろのこれまでを特大号で振り返りました。大変だったこと、楽しかったこと、色々なことが思い出されます。前センター長の突然の宣言で始まったこのびいどろも皆様の支えによって300名近くの子どもの家族との出会いの場になりました。「一人ひとりを大切に」の理念のもと、『びいどろ』という名前に込めたそれぞれの子どもや家庭が持つ他にひとつとないそのかたちと音色(声)を大切にしたいという思いをどう具現化するか、毎日毎日スタッフ一同考えてまいりました。その答えを教えてくれたのはいつも子どもたちでした。子どもの声に耳を澄ませ、言葉にならない言葉に思いを寄せたこの5年という時間は私たちびいどろの成長の糧でした。これからも子どもたちやそのご家族の傍で共に笑い、共に泣き、共に騒ぎ、笑いの絶えない日本一敷居の低いセンターを目指して歩いていきます。どうぞこれからもよろしくお願い致します。